５，主題構成表

主題名　　きまりを守る　　（小学校３学年）　　資料名　「おやつがいっぱい」

■内容項目　　４－（１）
約束やきまりを守り、公徳を大切にする心を持つ。

■資料の分析
・おやつのきまりを守らなかった多一に対する三郎の不快感に、自分の気持ちを重ね共感することができる。
・きまりを守った自分と多一を比べ「そんをした」という三郎の気持ちに自分の気持ちを重ね共感することが出来る。
・母親の「きまりをまもれる子になったのがとてもうれしいわ。」という言葉と、多一の行為に対する三郎の気持ちから、きまりを守ることの価値を感じ取らせることが出来る。

■児童の実態
・きまりを守らなければならないという意識はあるが、自分の好きなことになるときまりを守れない。
・仲間がきまりを守らないことに対しては厳しく指摘する。

■意識の要因
・集団内において、きまりを守らなければならないことは分かっている。
・集団生活が成立するためにはきまりを守ることは大切だという意識よりも、自分さえよければという、自分本位な思いで活動している。

■価値の分析
・集団生活をする上で、きまりを守らないことが周りを不愉快にすることに気づくことは、社会生活を送る上でとても重要である。
・きまりを守ることが社会生活を豊かにするために必要である理由を考えることは、仲間との関わり方を学ぶ中学年ではとても大切である。
・きまりを守ることが社会生活を豊かにするために必要である事が分かり、きまりを守ろうとする心情を育てていく。

■ねらい
みんなが楽しく生活をするために、きまりが必要なことを知り、きまりを守ろうとする態度を育てる。

■展開の構想
・資料の感想を自由に話し合わせる。その中から、追求課題を設定する。
・おやつのきまりを守らなかった多一に対する三郎の不快感に、自分の気持ちを重ね共感することができる。
・多一の行為が周りの人をどんな気持ちにしたのか、きまりを守らないことがどういうことなのかということを押さえる。
・母親の「きまりをまもれる子になったのがとてもうれしいわ。」という言葉と、多一の行為に対する三郎の気持ちから心情を引きだし、ねらいとする価値にせまる。
・自分も、「きまりを守ってよかったなあ」、ということを自覚する。

■基本発問（◎中心発問）

○感想を話しましょう。

○多一君のおやつをみていた三郎君はどんな気持ちになったでしょう。

○お母さんの言葉を聞いたときぼくはどんな気持ちだったでしょう。

◎今まできまりを守ってよかったなあ、と思ったことがありますか。